

V. その他報告(代表理事 杉尾 哲)

1. 理事会を開催しました

理事会は、隔月で午後3時から計6回開催した。

第1回 令和2年4月15日 メール会議 5名出席

役員改選、副代表理事の選任、定款変更(従たる事務所の変更)、総会の表決方法などについて協議

第2回 令和2年6月17日 ZOOM会議 6名出席

定款変更(主たる事務所の変更)、臨時総会の開催、新型コロナ下の活動方法などについて協議

第3回 令和2年8月19日 ZOOM会議 5名出席

新型コロナ状況下でのイベント開催などについて協議

第4回 令和2年10月14日 大淀川流域ネットワーク事務局 6名出席

九州河川協力団体連絡会議宮崎圏域会議の開催、パームヤシの活用方策などについて協議

第5回 令和2年12月22日 宮崎市民活動センター会議コーナー 6名出席

パームヤシのタコノアシ保全への活用方策、Green Giftプログラムの実施などについて協議

第6回 令和3年2月17日 宮崎市民活動センター会議コーナー 5名出席

全国一斉水質調査、総合水防演習、みやざき川づくり交流会の開催、通常総会などについて協議

2. 「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」を運営しました

この研究会は、宮崎県との協働事業として実施していて、本団体が事務局を務めています。河川等に関係する行政や企業の技術者に対する多自然川づくりの人材育成として、水辺の工法研修会、川づくりコンペ、身近な水辺のモニター報告会、現地研修会などを開催している。特に本年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、開催方法を変更して実施した。

●水辺の工法研修会の開催

本年度の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して3回ともオンライン研修会とし、講師が作成した説明動画を受信者限定で期間を設定して配信する講演方式で開催した。

1) 令和2年度 第1回研修会

期間 令和2年8月24日(月)～8月26日(水)

講師1 河川情報センター 福岡センター 所長 川口芳人 氏

題名 川づくりにおける設計図書について

講師2 滋賀県立大学 環境科学部 准教授 瀧健太郎 氏

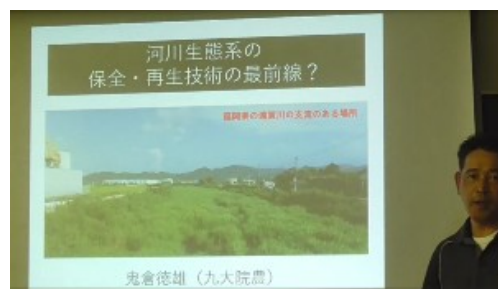
題名 「小さな自然再生」で地域づくり

受講者数：行政30名、民間710名

2) 令和2年度 第2回研修会

期間 令和2年11月4日(水)～11月6日(金)

講師1 九州大学大学院農学研究院 教授 鬼倉徳雄 氏



題名 河川生態系の保全・再生技術の最前線

講師 2 宮崎河川国道事務所 所長 金納聡志 氏

題名 流域での勤務・在住経験で見た「四万十川」と人との関わり

受講者数：行政 35 名、民間 592 名

3) 令和 2 年度 第 3 回研修会

期間 令和 3 年 1 月 18 日（月）～1 月 20 日（水）

講師 1-1 大分県土木建築部 河川課 主幹 小田一雅 氏

題名 大分県における川づくりの取り組み

講師 1-2 大分県土木建築部 河川課 技師 赤野久志 氏

題名 令和 2 年 7 月豪雨における被害状況について

講師 1-3 大分県中津土木事務所 主任 井上翔太 氏

題名 自然との調和を目指して～擬岩工法による河川災

害復旧工事～

講師 1-4 大分県日田土木事務所 主査 小西史恵 氏

題名 岩盤河床を活かした多自然川作り in 有田川

講師 1-5 大分県玉来ダム建設事務所 主査 築地祐一郎 氏

題名 流水型ダムの落とし穴～玉来ダムに足りなかったもの～

講師 2 岐阜大学 地域環境変動適応研究センター 特任助教 永山滋也 氏

題名 河川における自然プロセスと生態系保全

受講者数：行政 33 名、民間 396 名



●水辺の工法 現場研修会の開催

現場研修会は、昨年度に続いて防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策の現場における多自然川づくりの考え方の知見と技術の習得を目的として、行政職員と企業技術者を対象として、講義とグループ学習、グループ発表を実施した。

実施日 令和 2 年 6 月 22 日（月）

会場 宮崎県建設技術センター 大会議室

講師 九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏

講義名 樹木伐採・河床掘削における留意点や適切な方法等について

参加者数：行政 25 名、民間 43 名



●身近な水辺のモニター担当者への説明会の開催

各土木事務所で河川モニターと実施する川の生き物のすみかの環境調査シートによる河川特性調査について、実施方法を解説して、河川での実習を行った。

実施日 令和 2 年 5 月 22 日（金）

会場 綾町役場 南第一会議室・本庄川



参加者数 県河川課と土木事務所 20名

●うるおいのある川づくりコンペの開催

「私たちがめざすうるおいのある川や水辺はどんな姿なのか」について、河川で活動する企業・行政に呼びかけて開催した。今年も、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して参加者数を限定して、3密を避けながら集会方式で実施した。また、コロナ禍の影響で審査員の2名が辞退した。審査の結果、西臼杵支庁の「神代川かわまちづくりにおける取組について」が金賞、延岡土木事務所の「生態系に配慮した河道掘削について」が銀賞を受賞して、この2件が宮崎県の代表として九州川づくりコンペの発表課題に選出された。この他に、日向土木事務所の「耳川鳥川地区における自然環境の再生について」が銀賞、小林土木事務所の「辻の堂川の多自然づくりとその後の変化について」と宮崎河川国道事務所の「都城かわまちづくりの取り組みについて」が銅賞を受賞した。

実施日 令和2年8月3日(月)

会場 宮崎県自治会館 3階 大会議室

発表団体数 13団体、参加者数 34名

審査員 宮崎河川国道事務副所長 岩崎征弘 氏

宮崎県県土整備部 河川課長 小倉弘康 氏

宮崎大学工学教育研究部 准教授 大榮薫 氏

NPO法人手仕事舎そうあい 理事長 蒲生芳子 氏

九州河川研究所 代表 杉尾 哲 氏



●身近な水辺のモニター報告会の開催

県内各地の土木事務所で地域住民の方々をお願いしている水辺のモニターの報告会は、全員が集合して開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮して、活動内容が報告された発表動画のDVDと発表資料をまとめた冊子を作成し、各事務所とモニター団体に配布する書面会議に変更して実施した。

配布日 令和3年3月12日(金)

発表団体数 12団体

以上の宮崎県との協働事業は、多自然川づくりのための人材育成として機能している。この点が成果として表れていて、九州多自然川づくり協議会主催の第27回うるおいのある川づくりコンペにおいて本県の川づくりコンペ金賞受賞の西臼杵支庁の発表が高く評価されて景観部門の優秀事例として表彰され、全国多自然川づくり会議において九州代表として発表した。これに満足することなく、次世代にうるおいのある川を受け渡すために、今後もさらに充実させて実施すべきであると評価します。

3. 河川協力団体として活動しました

本団体は、大淀川下流域の河川協力団体として活動している。その活動として、宮崎河川国道事務所と住民団体との連携・協働、防災や環境情報の収集、河川に対する住民の理解の促進を図るために、下記の業務と活動を行った。

●みやざき川づくり交流会の運営補佐

宮崎河川国道事務所が平成 25 年度に立ち上げた「みやざき川づくり交流会」の運営を補佐している。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮して書面会議方式で開催され、各団体の活動などのトピックスやコロナ禍において活動できた事例などの報告が取りまとめられて宮崎河川国道事務所の HP に掲載された。

●簡易水質調査の実施補助

宮崎河川国道事務所が綾小学校 4 年生 62 名を対象に雨天のため体育館で実施した水生生物調査において実施補助を担当し、水辺での活動時の PFD 着用の大切さを説明した。

実施日 7 月 14 日(火)

場所 綾小学校体育館



●小松排水機場の一部利用

6 月に書面決議にて開催した臨時総会での議決を得て、国土交通省小松排水機場の一部を「河川を活かしたまちづくり活動の拠点、流域連携活動の拠点」を目的として利用することになり、6 月末に事務所を移転した。

その利用において、

① カヌー等資材貸出に関する対応：

貸出・返却時に個数と破損状況の確認

② 小松排水機場倉庫内の機材貸出申し込み受付：

6 団体受付

③ 水防用備蓄資材の管理：随時実施

④ 待機室及び排水機場の共用スペースの清掃：

毎月第 4 週の金曜日と必要に応じて実施

⑤ 待機室及び駐車場等周辺敷地の利用管理協力：

随時実施。その他、花火大会開催後のごみ拾い、看板の移動等

⑥ 待機室及び駐車場等物品管理協力、火元管理協力、施錠解錠管理協力：随時実施を行っている。



河川協力団体として活動は、九州内の河川協力団体および県内の環境団体との連携を深めるとともに、国土交通省との相互理解を深め、本団体の活動を連携して推進するのに極めて重要である。今後も積極的に継続すべき取り組みであると評価します。